

不登校児童支援に関して職員への専門性を高める研修と、 不登校児童の保護者対象の座談会の実施事業

社会福祉法人 若葉

〒722-0202 広島県尾道市因島大浜町4 2 7-9

助成事業の概要

本事業は、（公財）日本社会福祉弘済会の助成を受け、令和7年4月から翌年3月までの期間、広島県尾道市内で実施しました。

事業の目的は二つです。一つ目は、障がい児を支援する法人職員の専門性向上を目的とした職員研修の実施です。精神科認定看護師・出山義洋氏（NPO 法人ぼちまる代表）を講師に迎え、発達障害や登校困難な子どもへの支援の在り方・家族支援について合計2回の研修を実施しました。また職員が家庭支援に入る際には出山氏に同伴いただき、現場での実践的な学びの機会も設けました。

二つ目は、不登校の子どもを持つ保護者を対象とした座談会の定期開催です。出山氏を座長に迎え、尾道市教育委員会と連携しながら、因島会場・尾道市役所会場で合計9回開催しました。参加費は無料とし、チラシを小中学校・教育委員会を通じて配布するとともに申込用QRコードを設けるなど、悩みを一人で抱え込みがちな保護者が気軽に参加できる「安心できる居場所」づくりを目指しました。

事業の成果

本事業を通じて、以下の成果が得られました。

【参加者の広がりと継続性】

各回の参加保護者数は1名から12名であり、リピーターの参加が複数回確認されました。特に因島地区在住の保護者の方が複数回ご参加くださり、座談会が単発のイベントではなく「継続して

通える場」として機能し始めていることを示しています。参加者の中には、尾道市教育委員会の紹介で初めて参加された方や、上島町（愛媛県）のボランティア支援者など、地域を越えた連携の広がりも見られました。

【参加者の声・変化】

アンケートには「他の方々の話を聞くことで少し軽くなりました」「専門の方の話が聞けて良かった」「出山さんと会うと元気が出ます」「不登校で悩んでいる人にこの会が伝わればいい」など、肯定的な声が多数寄せられました。孤立しがちな保護者の方々が「一人ではない」という安心感を得られていることが確認されました。

【専門家・教育委員会との連携体制の確立】

精神科認定看護師である出山義洋氏が全回の座長を務め、参加者一人ひとりの状況に寄り添いながら専門的なアドバイスを行いました。また、当初は若葉主催で始まった本事業が、尾道市教育委員会との共催体制へと発展し、学校や教育機関からの情報発信・参加者紹介につながる仕組みが構築されました。

【課題】

開催時間帯については「夜間開催の方が参加しやすい」との意見があり、時間帯の設定が参加者数に影響することが明らかになりました。また、2会場体制は参加者の利便性向上に貢献した一方、運営コストや座長の移動負担の増加という課題も生じました。

成果の広報・公表

座談会の周知にあたっては、尾道市教育委員会を通じた市内全小中学校へのチラシ配布と、市役所・教育委員会窓口への掲示を継続的に実施しました。チラシには申込用 QR コードを掲載し、スマートフォンからも簡単に参加申し込みができる仕組みとしました。

また、社会福祉法人若葉の公式メールアドレスおよび電話番号を問い合わせ先として公表し、個別の相談にも対応できる体制を整えました。尾道市教育委員会との共催により、教育委員会の広報チャンネルを活用した発信も行われ、単独での周知と比べてより広い保護者層へのリーチが可能となりました。

本事業が（公財）日本社会福祉弘済会の助成事業である旨は、チラシ・会場看板・配布資料のすべてに明記し、助成の透明性確保に努めました。

今後の展開

本事業で構築した「専門家（出山氏）＋教育委員会＋法人」の三者連携による開催体制は、令和 8 年度以降も維持・発展させていく方針です。

令和 8 年度は、尾道市教育委員会との共催体制をより強化し、年間 8 回の開催（市教委主催 5 回・若葉主催 3 回）を計画しています。開催場所も市役所会場に加えて因島会場を継続し、島しょ部在住の保護者の参加障壁を引き続き下げていきます。

アンケートから明らかになった課題への対応として、夜間開催（18 時～）を基本とする回数を増やし、働く保護者が参加しやすい時間帯設定を充実させていきます。

また、「子どもの将来（進学・就職）」への不安を訴える保護者が多いことから、復学以外の多様な進路選択肢（フリースクール・通信制高校・就

労支援など）をテーマとした回を設けるほか、ひきこもり支援との連携も視野に入れています。